

ひとつの「学び」から得た発見が、知の世界を広げてくれる出発点となります。

どのように学びを広げていくか、教える人と学ぶ人、それぞれの学門分野について学びの出発点とこれまでをお聞きし、そのヒントを探してみました。

知の「開拓」

ちのかいたく

実体験を交え、シルクロードの魅力を語る岡内先生



担当講座

「シルクロードの東西交流」
「シルクロードの遺跡と伝来品」
「シルクロードの考古学」

教える人

岡内三眞先生

プロフィール

早稲田大学名誉教授。早稲田大学第一文学部卒業後、京都大学大学院文学研究科考古学専攻博士課程修了。早稲田大学文学学術院教授を2013年に退官。シルクロード調査研究所前所長。著書は『シルクロードの考古学』（早稲田大学）など。

岡内先生の 学びの提言

著書紹介



『シルクロードの考古学』
岡内三眞 編著
早稲田大学文学学術院
発行

西のコンスタンチノープルから東の正倉院まで各地の遺跡や遺物、歴史を図入りで解り易く解説する。現地にも携行できるA5判サイズのカラーで作成。

おすすめ図書 ～私の本棚から～



『シルクロード入門』
長澤和俊 監修
東京書籍 発行

長年にわたってシルクロード調査と研究を実践してきた著者によるシルクロード入門の決定版。幅広い分野を扱い、図や写真も多く読み物としても推薦の一冊。

「が」つてシルクロードのオアシス都市が点在していた新疆ウイグル自治区で、20年以上発掘調査を行ってきた岡内先生。「東西交流の長い歴史やさまざまな交易品の往来は、日本ではあまり見られないもの。そこに惹かれました」とシルクロードに魅了された理由を語ります。先生が、講義で心がけていることは主に2つ。「まず自分の実体験を交えながら、人と物と文化の東西間の交流について分かりやすく伝えること。もうひとつは、受講生が将来現地を訪れた際に役立つ情報を提供することです」講座では先生手作りの教材が配布されるほか、普段はなかなか目にすることができない出土品や参考図書などが回覧されることもあり、貴重な経験が得られる場となっています。

また講義のほか、時々実習や実作授業も行われます。当時は高価な交易品だったガラスのトンボ玉作りもそのひとつ。「メソポタミアやエジプトで製作され、シリアや地中海、アフガニスタンを経て東方に伝わったトンボ玉を作る作業です。色ガラスを溶かすためにガスバーナーを使うので、火災報知機を気にしなければならなかったり、一人ひとりの時間配分を考えたりなど結構大変なんです」と先生は苦笑気味ですが、受講生には大好評でした。そのほか、シルクロード関連の展示があると、受講生と博物館や資料館などに見学に行くこともあるそうです。長年中国で調査を続けてきた先生ですが、現在の日本人の対中感情について複雑な思いを抱いていると言います。「唐の時代になると、西方にも運

ばれた唐三彩が日本にも遣唐使などによって入ってくるようになります。講座を通じて、日本と中国には昔から密な交流があったことを知れば、中国に対する偏見も解けるのではないのでしょうか。シルクロードの授業は直接生活に関連するものではありませんが、そうした観点からも世界観や人間性を高めてもらえたら嬉しいですね」今後の抱負についてお聞きすると「近い将来、受講生を新疆に案内したい」とのこと。「シルクロードの要衝として栄えた場所、現地の空気を吸って、その立地や環境、雰囲気を感じて、味わってほしい。講義や映像だけでは分からないこともたくさんありますから」と笑顔で新疆訪問の計画を語ってくれました。

“ 現地調査の経験を踏まえ
東西交流を分かりやすく解説 ”

“

受講講座
「シルクロードの遺跡と伝来品」
「シルクロードの東西交流」

学ぶ人 島岡 育代さん

(2011年入会)



シルクロードのことを知れば知るほど、
心が豊かになります」と島岡さん

楼蘭更紗のハンカチ、ラピス・ラズリと、
講座で作成したトンボ玉



“シルクロードへの憧れが

学びの意欲をかき立てる



シルクロードには大きなロマ
ンを感じています」と、島岡
さんは目を輝かせます。興味を持つ
たきっかけは「楼蘭の美女」。タリム

盆地で発見された約3800年前の
ミイラで、20年以上前に日本の博物
館でも展示されました。島岡さんは
その美しさに魅了され、砂漠の中に
作られた国・楼蘭や、さまざまの湖
と呼ばれるロプノールにも関心を
持つようになりましたが、仕事が忙
しかったため本を読む時間もなく、
そのままと経過。数年前に岡内先
生の講座を知り、当時の気持ちが蘇
えたことから、すぐに受講を決め
ました。

毎週の授業をとても楽しみにして

いる島岡さん。「授業には先生の発掘
の体験が盛り込まれることもあり、
本当に充実しています。資料も盛り
だくさんで、手の込んだもの。毎回準
備に大変な労力を費やされていると
思います」また、以前先生の引率で博
物館に行った際には、先生が実際に
発掘した出土品を見学したり、直接
丁寧な説明をしてもらったりと、「贅
沢で幸せな時間」を過ごすことがで
きたそうです。

受講を始めてから、ご自身の生活
にも変化があったとのこと。「シル
クロード沿道の地域の報道や情報に
敏感になりました。また、以前はロ
マンを追い求めるだけだったのに、
ニュースの見方や物事の考え方も変

わり、自分でも驚いています。例えば
新疆ウイグル自治区のウイグル族と
中国政府間の問題について、一方に
肩入れすることなく公平に見られる
ようになりました」

長い間シルクロードに憧れを抱い
てきた島岡さんですが、「実は現地に
はあまり行きたくないんです」とい
う意外な言葉が。「地域によっては石
油コンビナートが作られ、都市化が
進んでいるところもあるそうです。
でも私の心の中にあるのは、砂漠や
天山山脈などロマンあふれる景色な
ので、夢はそのままにしておきたい。
そこに住む人々にも生活があり、私
の勝手な考えだとは分かっているの
ですが」と胸の内を明かしてくれま
した。

ただ、今後も岡内先生の授業を受
け続けたいという思いに変わりはあ
りません。「シルクロードについて新
しい知識を得ることで、心が豊かに
なり、生活も楽しくなります。大きな
計画になりますが、この東西交易路
の歴史をこれから系統立てて学びたい
と思っています」

島岡さんの 学びの履歴書

●受講科目 (★は岡内先生の講座)

2012年 シルクロードの考古学
ーユーラシアの交易都市ー ★

シルクロード伝来の
ガラス玉 ★

2013年 シルクロードの考古学
ー遺跡、遺物でみるユーラシ
アの東西南北交流ー ★

シルクロード伝来の文物 ★

シルクロードの歴史を探索 ★

2014年 シルクロードの遺跡と
伝来品 ★

シルクロードの東西交流 ★